

国内及び海外の抱っこひも等に関する事故事例等

抱っこひも等に関する事故は、大きく分けて「(子の) 転落」「窒息」「(親の) 転倒」等が報告されているが、本資料では「(子の) 転落」の事故を重点的にまとめている。

(国内)

- 都の調査において、平成 21 年（SG 基準最終改定年 2009 年）以降に起きている、抱っこひも等からの転落に関する事故事例を 116 件把握した。そのうち、入院を要する重症事例は 26 件で、受傷部位は頭部が大半を占める。
- 転落時の使用状況は、「抱っこひも等を着脱する際」、「抱っこからおんぶへと抱き方を変更する際」、「前かがみになった際」が多い傾向にある。
- 転落事故の月齢は 1 歳以下が多く、特に入院を要する重症事例については、月齢 4 か月以下に集中している。
- 東京都のヒヤリ・ハットに関するアンケートでは、乳幼児と同居する保護者 3,000 人の 2%が抱っこひも等から転落（転倒）の経験があり、7%が転落（転倒）しそうになった経験がある。

(海外)

- アメリカでは、1999 年以降、抱っこひも等に関し、保護者の転倒、子供の転落、窒息などの事故が 124 件報告されている。このうち死亡事故 4 件は全て窒息によるものである。
- アメリカ、カナダでは、1999 年以降、開口部からの乳幼児の落下、ストラップ外れ、バックル破損などの理由によるリコールに関連する事故が約 130 件報告されている。
- 欧州、中国、韓国では、転落事故情報、リコール情報は把握されていない。

用語の定義

- ・「**危害**」経験とは
転落・転倒等して、ケガをした等の経験を指します。
- ・「**危険**」経験とは
転落・転倒等したが、ケガ等はしなかった経験を指します。
- ・「**ヒヤリ・ハット**」経験とは
転落・転倒しそうになる等して、ヒヤリとしたりハットした経験を指します。

1. 国内の抱っこひも等からの転落に関する事故事例等

(1) 転落等の「危害」のうち、入院に至った重症事例

東京都が把握した、抱っこひも等からの転落に関する事故事例のうち、入院を要する重症事例 26 件は以下のとおり。調査対象は、SG 基準が最終改定された平成 21 年以降とする。

①日本小児科学会 傷害速報事例

	発生年月	子供の年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 25 年 3 月	0 歳 4 か月 男児	危害（救急搬送、入院）	児を抱っこひもに <u>対面で固定している状態で、券売機にて券を購入しようと 70 ～ 80cm 程度の高さの台にカバンを置いた。カバンから財布を出そうと少し前かがみになったときに抱っこひもの右脇から児が滑るように頭部を先進部にしてコンクリートの地面に転落してしまった。抱っこひものベルトはすべて閉めていた。普段は、ダウン着の上から装着していたが、その日はダウン着を着ていなかった。すぐに空港職員に声をかけて救急要請をしてもらい、近医へ搬送された。外傷性くも膜下出血を認めためて当院へ転院搬送された。生後 1 か月の頃から使用しており、今までも児がすり抜けそうとひやっとしたことはあった。外傷性くも膜下出血。入院 5 日間。</u>

出典) 日本小児科学会 Injury Alert (傷害速報)
<http://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>

②東京消防庁救急搬送事例

(平成 21 年～平成 25 年に、抱っこひも等からの転落により東京消防庁管内で救急搬送された乳幼児のうち中等症以上の事故事例 12 件)

	発生年	子供の年齢		事故（危害）の内容
1	平成 21 年	0 歳（月齢不明）	中等症	スーパーマーケットで買い物中、 <u>おんぶひもが切れて転落し、受傷したもの。</u>
2	平成 21 年	0 歳（月齢不明）	中等症	娘をスリングを使って抱っこしていたところ、 <u>スリングの止め具が外れ娘が転落してしまつた。後頭部と臀部をぶつけたため要請した。</u>
3	平成 22 年	0 歳（月齢不明）	中等症	<u>おんぶひもを解き子供を下ろそうとしたところ、手がすべり子供を床面に墜落させてしまつた</u>
4	平成 22 年	0 歳 1 か月	中等症	1 か月の男児を約 1 m の高さから、 <u>父親が抱っこひもから落とし、救急要請したもの。</u>
5	平成 23 年	0 歳 1 か月	中等症	祖母が、抱っこひもで孫を抱いていたが、 <u>抱っこひもの隙間から孫がフローリングの床に滑り落ち、頭部を打つたため、祖母が救急要請したもの。</u>
6	平成 23 年	0 歳 2 か月	中等症	傷病者を抱っこひもで抱きかかえていたところ、 <u>ひもが解け母親の腰の高さから床（フローリング）へ転落したもの。</u>
7	平成 23 年	0 歳 1 か月	中等症	店内で買い物中におんぶ抱っこひもで抱っこしていた 1 か月の長男が <u>おんぶ抱っこひもからすり抜け店内</u>

次ページへ

				フローア上に墜落し <u>後頭部</u> を受傷したもの。
8	平成 23 年	0 歳 10 か月	中等症	母親が抱っこひもでおんぶした状態でマンションバルコニーで洗濯物を干していた際、10 か月の女兒は抱っこひもから這い出てしまい誤ってバルコニー地面に落下し頭部を受傷した。
9	平成 24 年	0 歳 2 か月	中等症	子供を抱っこひもに入れようとしたところ抜け落ちてそのままフローリングの床の上に落としてしまった。子供の右耳から出血があったため救急要請した。
10	平成 24 年	0 歳 3 か月	重症	13 時ごろに抱っこひもをつけようとした際に約 1メートルの高さから落としてしまった。様子を見ていたが 19 時過ぎに <u>頭</u> にたんこぶが出来ていたため救急要請した。
11	平成 25 年	0 歳 11 か月	中等症	自宅で、母親が抱っこしていた長男を、おんぶに変えようと移動した際に、誤って約 1m の高さからフローリングに落としてしまい、 <u>後頭部</u> を打ってしまったもの。
12	平成 25 年	0 歳 6 か月	中等症	自宅で、母親が抱っこひもで抱っこ中に誤って床上に落としてしまい受傷したもの。

注) 重症とは、生命の危機が強いと認められたもの
 中等症とは、生命の危機はないが入院を要するもの
 出典) 東京消防庁救急搬送事例

③国立成育医療研究センターの受診事例

(平成 21 年 1 月～平成 26 年 5 月に、抱っこひも等からの転落により同センターを受診した乳幼児のうち要入院事例 13 件)

	発生年月	子供の年齢・性別	事故 (危害) の内容	
1	平成 22 年 4 月	0 歳 4 か月 女児	骨折 (入院)	母が抱っこひもを使って抱っこしていた。鍵をもとうと左手をリュックに回したら抱っこひもの中で寝ていた児が左脇から転落した。母の身長 152cm。転落 1m 位。すぐ泣いた、右頬に擦過傷、 <u>側頭部</u> に 6cm×6cm 位の血腫 (ウエストポーチのような形をしている部分を腰に装着し、児のお尻を乗せてひも部分を背中に渡して母の首にひっかける構造。)
2	平成 23 年 3 月	0 歳 1 か月 女児	骨折 (入院)	母が児をスリングで抱っこしていて、片膝を着いた状態で片方の手でベビーカーをたたもうとしたところ、 <u>児が滑り落ちるように転落した (高さ 50cm 位)</u> マンションの共用スペースでの事故。下はコンクリート。児は臀部から落ち、弾みで <u>後頭部</u> を打撲した。すぐに啼泣 痙攣なし 嘔吐なし。右頭頂部に頭血腫あり。到着時顔色不良あり
3	平成 23 年 10 月	0 歳 1 か月 男児	骨折、脳挫傷 (入院)	母・祖母とで、兄と児を連れて買い物に行く途中での出来事。児をベビーカーで母が前抱っこし、兄・母・祖母は歩きで出発。兄か児が使えるように、ベビーカーも持ってでかけた。兄がベビーカーを押したが、走り出したりしたので、ベビーカーを支えたり、兄を取り押さえようと上体をかがめた際に、 <u>児がベビーカーから転落した。おちた瞬間は気づかず、落下した音で気がついた。鈍い音がした。どこから落ちたのか分からなかった。転落の高さは 1m 前後か。</u>

				(4.5kg 以下の乳児は腿を固定する「レッグストラップ」を留めなければいけないが、これを留めていなかった。)
4	平成 23 年 11 月	0歳7か月 女兒	骨折 (入院)	母が、夕飯の支度をする際、児がぐずっていたのでおんぶして家事をしようと考えた。今までおんぶひもは、ずっと前抱っこで使用していたが、先日手順書を見ておんぶを試したところうまく出来たので“大丈夫できる”と思っていた。児の腕をおんぶひもにセットして背中に背負うためにひもごと持ち上げて立位で母の右側より背負った。しかし、 <u>母の左肩に肩ひもがうまく掛からず四苦八苦しているうちに、児が動き出した。おんぶひもの左側より児が転落しそうになったので母が腰をかがめた</u> がそのまま頭よりフローリングへ転落。
5	平成 24 年 1 月	0歳1か月 男児	骨折 (入院)	父母と児で、父の車で外出。15 時過ぎに、洋品店の試着室で試着をおえ、通路に出たところあたりで、父が抱っこ帯を首にかけようともちあげたところ、 <u>児が頭側にスライドしてすべりおちた。頭から真逆さまに落ち、床で頭部打撲した。転落の瞬間は母が至近距離で目撃。父母とも転落時の衝撃音(ガンという音)を聞いている。児はすぐに激しく泣いた。父がすみやかに抱き上げて確認したところ、みるみる頭皮がふくらんできたのが分かった</u> ので、泣いている児をなだめながら、父の車で成育の救急に来院。試着室をでたところで、床はビニールシートで覆われたフラットな固い床。試着室のならば通路での転落で、店員は通路にいたが母で死角になって見えていなかったと思う。「児が転落した」ことを目撃は父母のみ。特に騒ぎになることはなかったため、商品をすぐに棚にもどして店を離れた。 (4 ウェイタイプのもを、新生児用の横抱っこ専用シートを使用して横抱きで使用)
6	平成 24 年 3 月	0歳4か月 男児	骨折,硬 膜外出 血 (入院)	ベビーベッドで寝かせていた。抱っこひもでおんぶしようとしたらおんぶひもから転落した。床はフローリング。高さは 60cm くらい。機嫌良い、哺乳良好。 <u>左側頭部腫脹あり</u>
7	平成 24 年 4 月	0歳2か月 女兒	打撲傷, 右耳出 血 (入院)	自宅にて朝の支度をしていた。児がぐずったが世話をする時間がないためスリングに入れてあやそうと、 <u>児を急いでスリングに入れようとした。が、袋状になっているところに納まらず、スリングと母の隙間から転落した。</u> 右側頭部を下に床に滑り落ちた。高さ 1m 位。床はフローリング。すぐに泣いた。嘔吐なし。意識消失なし。そのほか呼吸困難などなし。すぐ救急車要請。右耳の中から出血あり。 (肩掛け式の一体構造のスリング。米国製。)
8	平成 24 年 6 月	0歳4か月 男児	骨折,打 撲傷 (入院)	母がおんぶひもで児をおんぶしようとして、リビングのソファに児を乗せて、抱っこひもを母のウエストに固定した。 <u>児を仰向けに乗せた状態で、右肩のひもを肩にかけ、立ちあがったところ、左横から児が転落した。</u> 児が仰向けに落ちた (90cm) ように見えたが、何処を打ったかは分からない。床はフローリングにカーペット。鈍い音がした。意識消失なし。頭頂部右後方に 3cm 大の血腫あり。意識清明。

9	平成 25 年 10 月	0 歳 1 か月 女兒	骨折,頭 蓋内損 傷 (入院)	ベランダで母が立抱き用抱っこひもで抱っこしていて、大泣き。 <u>抱っこひもが外れ転落。約 110cm。コンクリート。すぐに泣いてその後寝た。叩いて刺激したらずっと起きている。嘔吐なし。右頭頂骨骨折。</u> 来院時不機嫌以外に明らかな異常所見を認めなかった。
10	平成 25 年 12 月	0 歳 1 か月 女兒	頭蓋内 損傷 (入院)	母が 3 階マンションから児をつれて外出した。スリングを使用して児を抱いていたが、階段を降りている際に少しずつずれて、おしりの支えが浅くなってしまった。外のアスファルトの上で立位のまま、おしりをスリングを深く入れようとした際におしりが滑ってしまった。足から着地し、尻餅をつき、後ろに倒れて後頭部をぶつけた。 <u>外傷性クモ膜下出血。</u>
11	平成 25 年 12 月	0 歳 1 か月 女兒	骨折 (入院)	母が自宅で児を抱っこからスリングに入れようとしたところ、 <u>児の足がひっかかりうまく入らず、母の前方向に頭より転落した。</u> 転落後は啼泣あり、意識障害、嘔吐はなかったが、母からみて反応が乏しかったように思われた。目撃者は母のみ。父は同室にいたが後ろ向きであった。床はフローリング。 <u>頭部：左頭頂部に 5cm 程度の波動を触れる血腫あり。</u>
12	平成 26 年 2 月	0 歳 1 か月 男児	前頭骨 骨折 (入院)	抱っこひも調節中、 <u>児がフローリングへ墜落。</u> 母身長 162cm 本日は、 <u>抱っこひものまま授乳。</u> 授乳後、抱っこひもがゆるんでいたため、立ち上がって調整を行おうとして母の右手側の抱っこひもを支える留め具を一旦外して差し込もうとした際、 <u>児が抱っこひもの横からすり抜けて墜落した。</u>
13	平成 26 年 2 月	0 歳 3 か月 女兒	骨折 (入院)	雪が降って天候は悪かったが予定通り 4 か月検診へ出かけた。場所は区役所出張所。非常に混んでいるとの噂は聞いていたが、噂通り会場はとても混んでいた。ベビーベッドも 1 つくらいあるがそこではすでにオムツを替えている人などもいて、赤ちゃんを下ろす場所がどこにもなかった。待合いのソファの上にとりあえず児を下ろそうと思い、荷物を先においてその次に児を下ろそうとした。今ひとつ記憶にないが、荷物を下ろすより先に抱っこひもの左の固定具を外していたようで、母の左側、固定具の隙間から滑り落ちるように転落した。たぶん頭からおちたように思う。母のコートも一緒に脱げて落ちてその上に落ちていて、直接床に落ちたのではない。特に落ちたときの音はしなかったように思う。受傷は 13:00 頃。すごく混み合っていて、落ちたところをみんな見ていて周囲はどん引きしていた。児は落ちた後にわっと泣いたが、すぐに抱き上げてあやすとニコニコ笑っていた。顔色不良無し。意識変容無し。そのまま検診を受診、診察の小児科医に会場内で転落して頭を打ったことを話し、左右の瞳孔をみたりや頭の触診などもしてくれた。その時には特に異常はなかったが「吐いたり元気が無ければ救急受診するように」と説明された。その後、帰宅した時点で異常はなく、児もニコニコしていた。帰宅後、しばらくして頭が大きく膨れてきたことに気づいた。

出典) 国立成育医療研究センター

【参考：窒息の事故事例】

	発生 年月	子供の 年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 21 年 10 月	0 歳 2 か月 女兒	死亡	家族で遊びに行き、帰りの電車内で母親にスリングで抱っこされていた。スリングは、顔を含めて全身を包み込むように使用していた。16 時 20 分頃、スリング内で児が入眠しているのを母親が確認した。16 時 45 分に電車を降りた。16 時 50 分頃、体動がなくなり、母親は児が寝たと認識した（呼吸の有無は確認しなかった）。17 時過ぎ、帰宅しスリングから児を降ろしたところ、ぐったりしており呼吸をしていなかった。

出典) 日本小児科学会 Injury Alert (傷害速報)

<http://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>

(2) 転落事故の状況

東京都が把握した平成 21 年以降に発生している抱っこひも等からの転落に関する事故事例は 116 件。

① 日本小児科学会 傷害速報事例データ分析

- 発生年月 平成 25 年 3 月
- 発生月齢 4 か月
- 使用状況 抱っこ
- 転落時の状況 保護者が前かがみになった
- ケガの程度 入院（外傷性くも膜下出血）

② 東京消防庁データ分析（平成 26 年 7 月 防災安全課防災安全係）

平成 21 年～平成 25 年に、東京消防庁管内で救急搬送された乳幼児のうち抱っこひも等からの転落による事故事例 62 件について分析した。なお、「おんぶ」「抱っこ」の状況、転落時の使用状況については、概要から推測して分類した。

○月齢別発生件数（カッコ内は要入院の件数）

0 か月	1 か月	2 か月	3 か月	4 か月	5 か月	6 か月	7 か月	8 か月	9 か月	10 か月	11 か月	12 か月以上	不明	計
2	8	4	7	3	5	4	4	3	2	3	1	3	13	62
(0)	(3)	(2)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(3)	(12)

○「おんぶ」「抱っこ」の状況（全 62 件）

おんぶ	27
抱っこ	35

※「抱っこ」35 件には、「スリング」使用 4 件を含む。

○転落時の使用状況（全 62 件）

着脱時	28
ひもや留め具のはずれ	10
前かがみ	6
すり抜け	5
その他・不明	13

※着脱時には、抱っこからおんぶへの変更 3 件を含む。

○ケガの程度（全 62 件）

重症	1
中等症	11
軽症	50

- ※重症とは、生命の危機が強いと認められたもの
 中等症とは、生命の危機はないが入院を要するもの
 軽症とは、入院を要しないもの
 ※重症、中等症の 12 件について、詳細内容を前述。

③ 国立成育医療研究センターデータの分析

平成 21 年 1 月～平成 26 年 5 月までに、抱っこひも等からの転落等により同センターを受診した乳幼児 52 件を対象として分析した。なお、「おんぶ」「抱っこ」の別、転落時の使用状況については、概要から推測して分類した。

○月齢別発生件数（カッコ内は要入院の件数）

0 か 月	1 か 月	2 か 月	3 か 月	4 か 月	5 か 月	6 か 月	7 か 月	8 か 月	9 か 月	10 か 月	11 か 月	12 か 月	13 か 月 以上	計
1 (0)	11 (7)	7 (1)	2 (1)	7 (3)	3 (0)	3 (0)	6 (1)	6 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	52 (13)

○「おんぶ」「抱っこ」の状況（全 52 件）

おんぶ	16
抱っこ	36

※「抱っこ」36 件のうち、「スリング」使用 5 件を含む。

○転落時の使用状況（全 52 件）

着脱時	29
前かがみ	9
ひもや留め具のはずれ	5
すり抜け	5
その他・不明	4

※着脱時には、抱っこからおんぶへの変更 2 件含む。

○ケガの程度（全 52 件）

要入院	13
要通院	24
処置後、近医へ	1
経過観察（治療不要）	14

※要入院の 13 件について、詳細内容を前述。

④ 全国消費生活情報ネットワーク・システム（PIO-NET）データの分析

PIO-NET において、抱っこひも等に関する危害・危険情報を都が独自に集計したところ、平成 21 年 4 月以降受付、平成 26 年 5 月 31 日まで登録分の相談のうち、抱っこひも等から転落したものは 1 件だった。

- 発生年月 平成 24 年 10 月
- 発生年齢 0 歳（推定 4 か月）
- 使用状況 抱っこ
- 転落時の状況 ひもが緩んだ
- ケガの程度 救急搬送され、受診の結果「異常なし」

(3) 東京都ヒヤリ・ハットに関するアンケート

東京都が、消費者に対して行ったアンケートの中で、協議会テーマ「抱っこひも等の安全対策」に関連する部分について報告する。

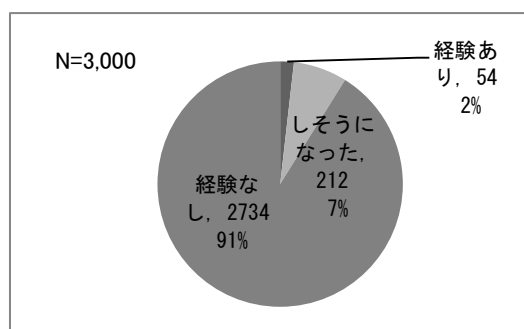
○平成 25 年度ヒヤリ・ハット情報分析事業 第 4 回インターネットアンケート「乳幼児の転落・転倒」に関する調査

- ・調査対象者：都内に在住する、0 歳児（6 か月以上）から小学校入学前の乳幼児と同居する保護者（スクリーニングにて把握）
- ・サンプル数：3,000 人（0~6 歳児について年齢性別により、均等サンプル割り付け）
- ・アンケート実施期間：平成 26 年 1 月 30 日～2 月 12 日

○経験の有無

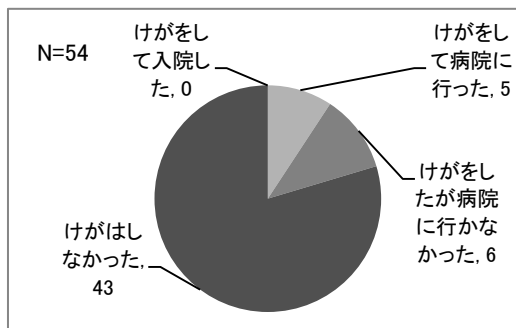
《設問》あなたのお子さんが乳幼児の時に、抱っこひも、おんぶひもに関連して家の外で転落や転倒をしたことがありますか。

（回答は「転落・転倒『した』経験がある」「転落・転倒『した』経験がなく、『しそうになった』経験だけある」「転落・転倒『した』経験も、『しそうになった』経験もない」の三択。）



転落・転倒『した』経験がある	54 件
転落・転倒『した』経験がなく、『しそうになった』経験だけある	212 件
転落・転倒『した』経験も、『しそうになった』経験もない	2,734 件
計	3,000 件

○「転落・転倒を『した』経験がある」と回答した人（54人）のケガの程度と年齢の状況
 《設問》被害の程度とのお子さんの性別と、その時の年齢を教えてください。



	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男の子	13件	8件	0件	2件	1件	0件	0件	24件
女の子	19件	7件	4件	0件	0件	0件	0件	30件
計	32件	15件	4件	2件	1件	0件	0件	54件

○抱っこひもの「転落・転倒」について詳細の記述があった30件についての事故時の状況

	着脱時	使用中	前かがみ	不明	計
おんぶ	17件	4件	0件	0件	21件
抱っこ	1件	1件	2件	0件	4件
スリング	0件	0件	1件	1件	2件
不明	1件	1件	0件	1件	3件
計	19件	6件	3件	2件	30件

(注)「おんぶ」：抱っこからおんぶへの変更を含む。

「着脱時」：着時、脱時、抱っこからおんぶへの変更時を含む。

「使用中」：留め具が外れていた、ベルトが緩んでいたなどの装着不備を含む。

○記述のあった事例30件から、記述内容を抜粋。

- ・0歳の時に抱っこひもでおんぶをしようとしたらひもから子供がすり抜けてしまい、フローリングに頭から落ちてしまった。泣かずに顔が真っ青になり、その後嘔吐したので救急車で病院へ行った。CTを撮ったが、脳震盪で異常なし。
- ・抱っこひもで娘を抱っこしたまま、床に落ちたものを取ろうとしたらスポッと床に落ちた。ぐったりしてしまったので慌てて救急病院に連れて行ったが大事には至らなかった。
- ・抱っこひもでおんぶをしようとして、つけ方に慣れていなく急いでいた際にうまく後方でおんぶができず娘が床の上に落ちてしまった。
- ・0歳のとき、出産祝いで夫の会社の人は何人も集まって自宅に来てくれたとき、少しぐず

ってきたのでおんぶひもでおんぶをしながらのおもてなしになってしまった。夫と交代でおんぶひもを使っており、夫が使ったあとに、普段は外さない固定具をたまたま外しており、気付かずに使って立ちあがったら、娘がするりと落ちてしまった。

- 抱っこひもと子供の間が時間の経過とともに緩んで子供が地面に落ちた。
- 立ったまま、おんぶから抱っこに変えようとしたら、暴れて床に落ちた。

2. 海外の抱っこひもに関する事故事例等

(1) アメリカ

米国消費者製品安全委員会（CPSC）の報告によれば、事故及びリコールの実態は次のとおり¹。なお、アメリカでは、乳幼児キャリアを、やわらかい乳幼児用の抱っこひも²（Soft Infant and Toddler Carriers）、スリング抱っこひも（Sling Carriers）、手持ち幼児キャリア（hand-held infant carriers）およびフレーム付背負いキャリア（frame backpack carriers）と分類している。本資料では、やわらかい乳幼児用の抱っこひも（以下、「抱っこひも」とする）についての情報を整理することとする。

			
やわらかい乳児用の抱っこひも	スリング抱っこひも	手持ち幼児キャリア	フレーム付背負いキャリア

出典) CPSC 報告書

① 乳幼児抱っこひもに関わる事故

- ・ 1999年1月から2012年9月上旬までの間、CPSCは93件の事故を把握した。うち2件が死亡事故であった。
- ・ 2012年9月11日から2013年7月15日までの間、CPSCは新規に31件の事故の報告を受けた。うち2件は死亡事故であった。
- ・ 上記4件の死亡事故はいずれも窒息によるものだった。

¹ 米国においては2013年より規制制定の提案がなされており、その際に公表された「提案規則作成公示（Notice of Proposed Rulemaking）」にはCPSCによる事故・リコール情報を含む報告が含まれている。CPSCウェブサイト「Safety Standard for Soft Infant and Toddler Carriers Proposed Rule」2013年4月5日、<http://www.cpsc.gov/en/Regulations-Laws-Standards/Federal-Register-Notices/2013/Safety-Standard-for-Soft-Infant-and-Toddler-Carriers-Proposed-Rule/>
また、2014年3月には米国規則制定に際し、上記を引用した公示が発出されている。CPSCウェブサイト「Safety Standard for Soft Infant and Toddler Carriers Final Rule, 16 CFR Parts 1112 and 1226」2014年3月28日、<http://www.cpsc.gov/en/Regulations-Laws-Standards/Federal-Register-Notices/2014/Safety-Standard-for-Soft-Infant-and-Toddler-Carriers-Final-Rule/#h-10>

² 本資料における英語の製品名の和訳はいずれも仮訳である。

- ・ CPSC が消費者等から直接報告を受けた上記 93 件とは異なる情報源である全国電子傷害監視システム (National Electronic Injury Surveillance System (NEISS)) により、CPSC は 1999 年から 2011 年の間、合計 1,400 人が全米の病院の救急部門による手当てを受けたと概算している。なお、NEISS を通じた死亡事故は報告されていない。
- ・ 傷害を負ったのはいずれも 2 歳以下である。傷害の治療にあたった病院救急部門によれば、頻繁に見られる特徴は次のとおりである。
 - 原因 - 保護者の転倒時に抱っこひものなかにいる状態で地面に打ち付けられた (65%); 抱っこひもから落ちた (21%)。
 - 傷害を受けた部位 - 頭部 (63%); 顔面 (11%)。
 - 傷害の種類 - 頭蓋内損傷及び詳細不明の頭部傷害 (48%); 打撲傷/擦過傷 (19%); 骨折 (12%)
 - 搬送後の措置 - 手当後帰宅 (79%); 入院 (10%); 手当後移送 (9%)。

② 乳幼児抱っこひもに関わるリコール

1999 年 1 月から 2012 年 6 月 17 日までの間、7 種、合計約 65 万個の製品がリコール対象となった。これらのリコールに関連し、CPSC には 130 件の事故情報が報告された。

- ・ リコールの製品名、個数及び事故情報等は次のとおりである。なお、リコールに関連し、9 件の傷害 (打撲、頭蓋骨骨折等) が報告された。

表 2 抱っこひものリコール

製造者	モデル	リコール年	製品数	理由	事故報告件数	傷害報告概要
Evenflo Company & Hufco-Delaware, Inc.	Model 070 & 080 Snuggli® Front and Back Pack™	1999	32 万 7,000	開口部から乳幼児が落下する危険	13	頭蓋骨骨折 1 件、打撲傷 2 件
Baby Swede, LLC	Baby Bjorn (回収・修理の後、返却)	1999	24 万	開口部から乳幼児が落下する危険 (2 か月児が最も危険)	9	頭蓋骨骨折 6 件
Baby Swede, LLC	Baby Bjorn Carrier Active	2004	4 万 9,000	背中を支える部分が肩ストラップから外れ、落下する危険	93	傷害の報告なし
Playtex Products, Inc	Playtex Hip Hammock	2005	3 万 2,000	肩ストラップがハンモックから外れ、落下する危険	2	傷害の報告なし
Beco Baby Carrier, Inc	Beco Baby Carrier	2008	2,000	肩ひものバックルが緩み肩から滑り	8	傷害の報告なし

	Butterfly			落ち、幼児が落下する危険		し
Optave, Inc	Action Baby Carrier	2008	250	胸ひもが肩ひもから外れ幼児が落下する危険	2	傷害の報告なし
Regal Lager, Inc	CYBEX 2. GO Infant Carriers	2010	アメリカ 2,700、カナダ 400	肩ひものバックルが破損し幼児が落下する危険	3	傷害の報告なし
合計			約 65 万	—	130	—

出典) CPSC 公示 (2013 年)

- ・ CPSC のリコール情報サイトより抽出した近年のリコール情報及び関連する事故情報は次のとおり

表 3 近年のアメリカ・カナダにおける抱っこひも等製品のリコール

リコール時期(場所)、製品名	対象製品【タイプ】	製造者、販売者	事故情報
2010 年 3 月 (アメリカ、カナダ) SlingRider、Wendy Bellissimo CPSC・カナダ健康省・製造業者が協力して実施 ³	米国 100 万製品、カナダ 1 万 5 千製品のリコール 無料交換。2003 年 1 月から 2010 年 5 月まで、25 ドル及び 30 ドルで販売 【横型】	製造：Infantino 社	米国 CPSC は 2009 年に 3 件の窒息による死亡事例を把握 (7 週児、6 日児、3 か月児)
2013 年 12 月 (カナダ) ⁴ Playtex Hip Hammock infant carriers	30.5 万および 3 万 6 千製品のリコール 普通モデル 40 ドル、特別モデル 60 ドル 2004 年から 2008 年及び 2010 年に販売 【タテ型】	製造：Playtex Products Inc., of Dover, Del. 販売：Burlington Coat Factory, Target, Walmart	87 件のバックル破損が報告され、うち 2 件がケガ(程度に関する情報なし)

出典) CPSC ウェブサイトのリコール検索より三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング作成

(2) オーストラリア

① 乳幼児抱っこひもに関わる事故

- ・ オーストラリアにおいては連邦レベルの政府機関が発表する事故情報はないが、クイーンズランド州の検死官が発表した「生後 3 週間以内の乳児の死亡事故に係る報告書」⁵がある。これによれば、2010 年以降、抱っこひも使用に関連するオースト

³

<http://www.cpsc.gov/en/Recalls/2010/Infantino-Recalls-to-Replace-SlingRider-Baby-Slings-Three-Infant-Deaths-Reported/>

⁴ <http://www.cpsc.gov/en/Recalls/2014/Playtex-Recalls-Hip-Hammock-Infant-Carriers/>

⁵ Queensland Court, Office of the State Coroner, “Non-Inquest Findings of the Investigation into the Death of Baby T”

ラリアでは3人の乳児が死亡している。このうち1件は生後2日の乳児の窒息死(2010年9月)⁶で、他2件の詳細は不明。

② 乳幼児抱っこひもに関わるリコール

- ・ 2014年3月、オーストラリア消費者・競争委員会(ACCC)は、2013年にカナダでリコール対象となったPlaytex Hip Hammock infant carriersについてリコールを発表した⁷。

(3) その他

欧州、中国、韓国における事故情報及びリコール情報は把握していない⁸。また、カナダについても、事故情報及び上記(1)②で述べた以外のリコール情報は把握していない。

2014年3月25日、(http://www.courts.qld.gov.au/_data/assets/pdf_file/0004/252391/cif-baby-t-20140325.pdf)

⁶ インターネットニュースのニューズドットコムオーストラリア“Warning on baby slings after newborn dies”, New.com.au、2011年9月19日

(<http://www.news.com.au/national/adelaide-baby-dies-while-carried-in-baby-sling/story-e6frfkvr-1226140461556>)

⁷ ACCC 製品安全リコールサイト、2014年3月17日

(<https://www.recalls.gov.au/content/index.phtml/itemId/1056613>)。なお、同検索サイトでは、この他の抱っこひもに係るリコール情報はない。

⁸ (一財)自治体国際化協会各事務所による。